



### 「6月病」って・・・

ここ最近の暑さには閉口してしまいますね。こうも暑いと子どもたちの体調が気になります。また、先だっの感染性胃腸炎(の疑い)について、お家の方々のご理解とご協力、誠に感謝いたします。

さて、5月病に加えて6月病(ろくがつびょう)なるものがあるそうです。怒涛(どとう)の4月が終わり、矢継ぎ早(やつぎばや)の5月を乗り切り、そして無事迎えたこの6月こそがあぶないとは新聞からの情報。お家の方もそう思いませんか? 進級や進学、異動や転勤、転職や就職を迎えると、つまり家族のうち一人でもその置かれた環境が変わると、みんなが大変になるときが確かにあります。そしてやっと慣れたところに、身体的にも精神的にもホッとするこの6月に疲れがドッと出るのだそうです。

No Image

No Image

本校の職員も、毎日7、8時に帰宅するのが当たり前で土日に仕事に来る職員もいます。それは特に若い教員に多く、そのやる気と負けん気は十分認めますが、根気の面で少々心配している次第です。でも、本校の場合はまず大丈夫(かな?)。というのは、教師の仕事の内容は多々あれど、一番つらくてストレスに感じることは何かと考えると云わずもがなですね。自分のように校長という立場でいると、学校内外のいろいろな情報が日々入

てきます。しかし、少ないと感じているのは、職員に対するご意見やご要望です。その上、会って顔を見て話を聞いていただくと、大人の対応をしてくれる方ばかりなのです。もちろんそれは本校職員の姿勢もあるでしょうが、それ以上にお家の方の学校や職員に対する見方や考え方、かかわり方が重要なファクターとなっているように思えてなりません。

No Image

この6月病は5月病と同じく、まわりの様子が大きく変わった時になりやすいと言いましたが、今後このようなよき環境から、職員が異動した先のことを考えるのは心配しすぎでしょうか。

No Image